

1. 令和4年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

1 概要

(1) 農林業被害の推移

山口県における野生鳥獣による農林業被害は、平成22年度をピークに減少傾向にあります。令和4年度の被害金額は、対前年度比4%減の約3億7千4百万円となりました。

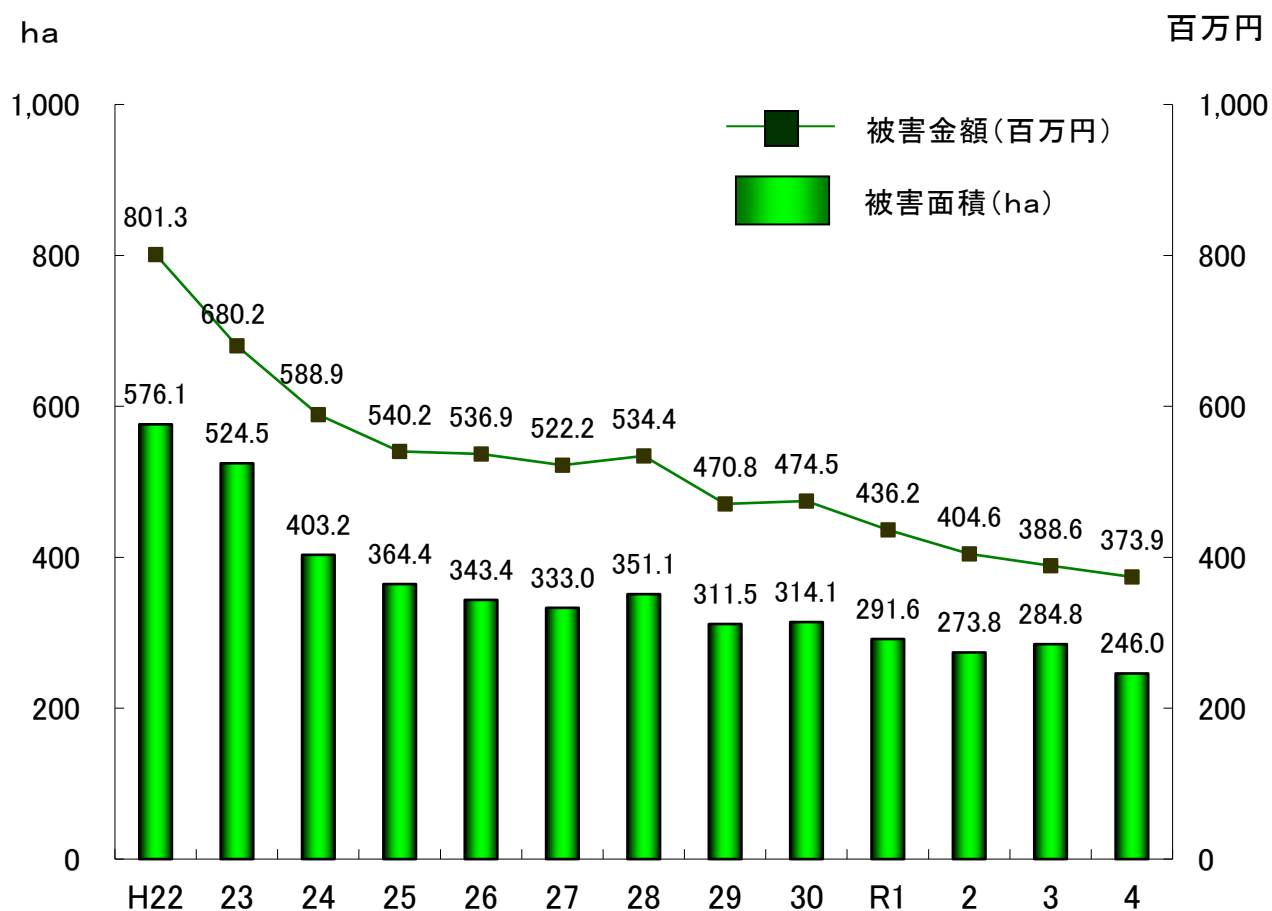


図-1 被害面積及び被害金額の推移（鳥獣被害全体）

(2) 鳥獣別・作物別被害の内訳

令和4年度の被害金額を鳥獣別に前年度と比較すると、イノシシ、サルは減少し、シカは増加しています。

鳥獣別の被害金額は、獣類が3億3千3百万円（全体の89%）、鳥類が4千1百万円（全体の11%）となっています。

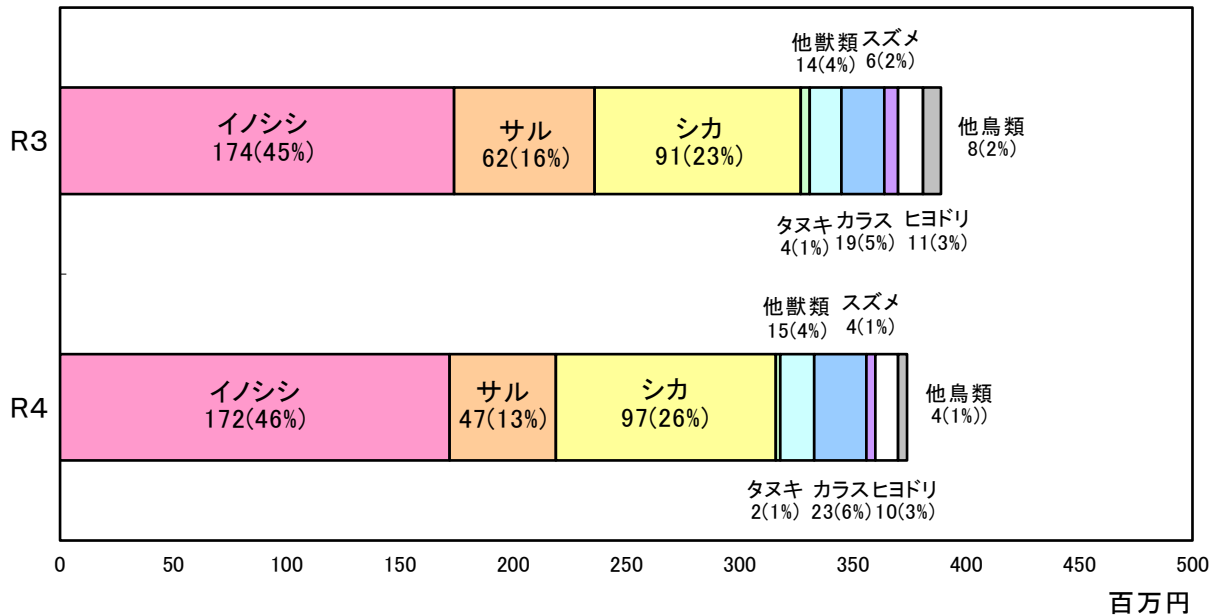


図-2 鳥獣別の被害金額

作物別の被害金額は、例年どおり水稲が最も多くなっています。被害金額は、水稲、果樹が増加し、野菜は減少、他はほぼ横ばいです。

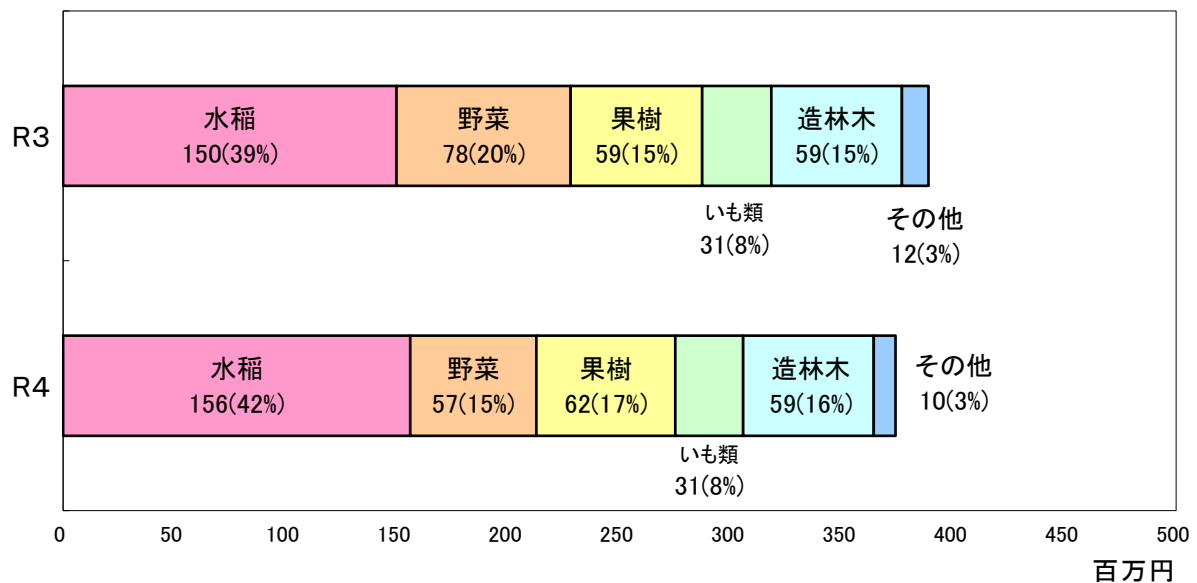


図-3 作物別の被害金額

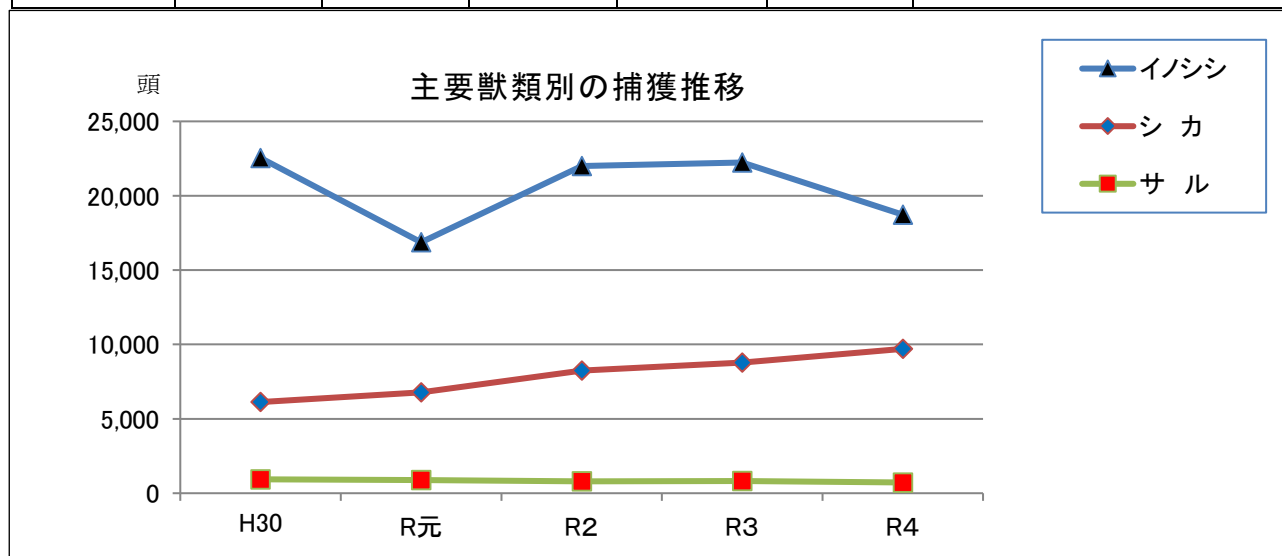
【参考】

捕獲については、猟友会の協力により、捕獲数が増加傾向にある。
令和4年度は、シカについては過去最高の捕獲数となった。

○主要獣類別の捕獲実績（R4は速報値）

（単位：頭）

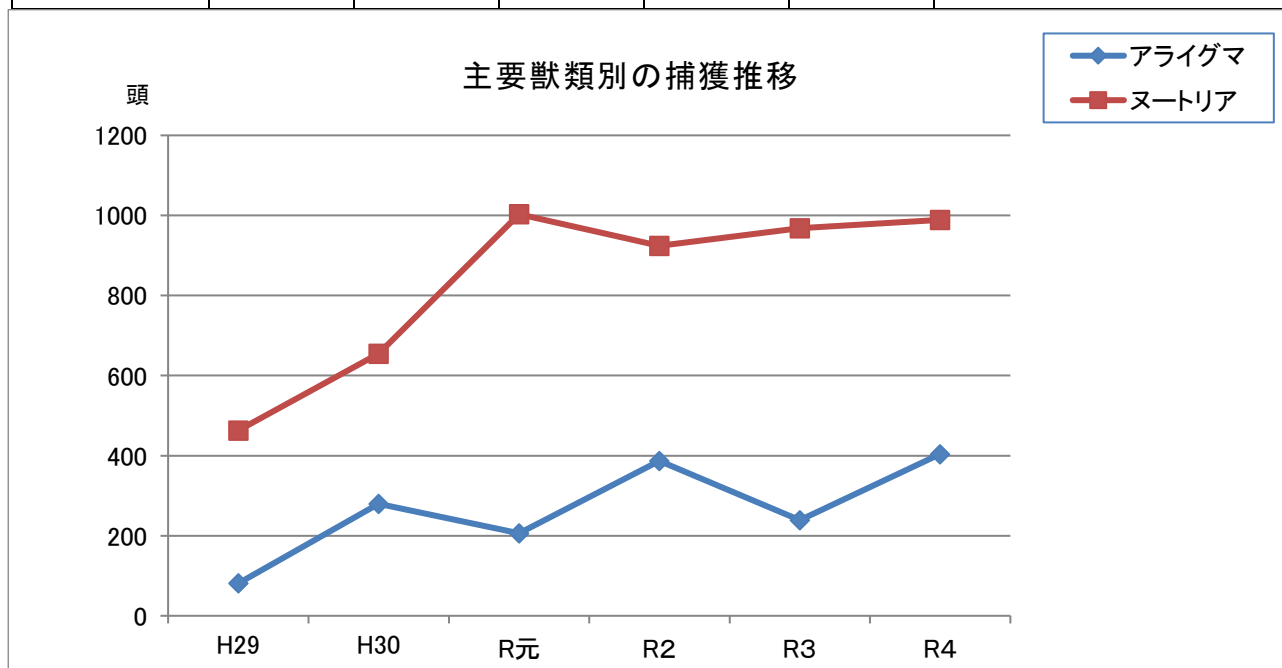
区分	H30	R元	R2	R3	R4	増減
イノシシ	22,539	16,870	22,004	22,228	18,729	▲3,499頭(15.7%増)
シカ	6,129	6,788	8,255	8,775	9,705	+930頭(10.6%増)
サル	934	876	801	816	722	▲94頭(11.5%減)



○主要獣類別の捕獲実績（R4は速報値）

（単位：頭）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	増減
アライグマ	280	206	387	239	404	+165頭(69.0%増)
ヌートリア	655	1,003	924	968	989	+21頭(1.2%増)



2 獣類別の被害状況

(1) イノシシ

イノシシによる被害は、前年度比1%減の1億7千2百万円となり、被害額がピークであった平成22年度以降で最も少ない被害額となっています。

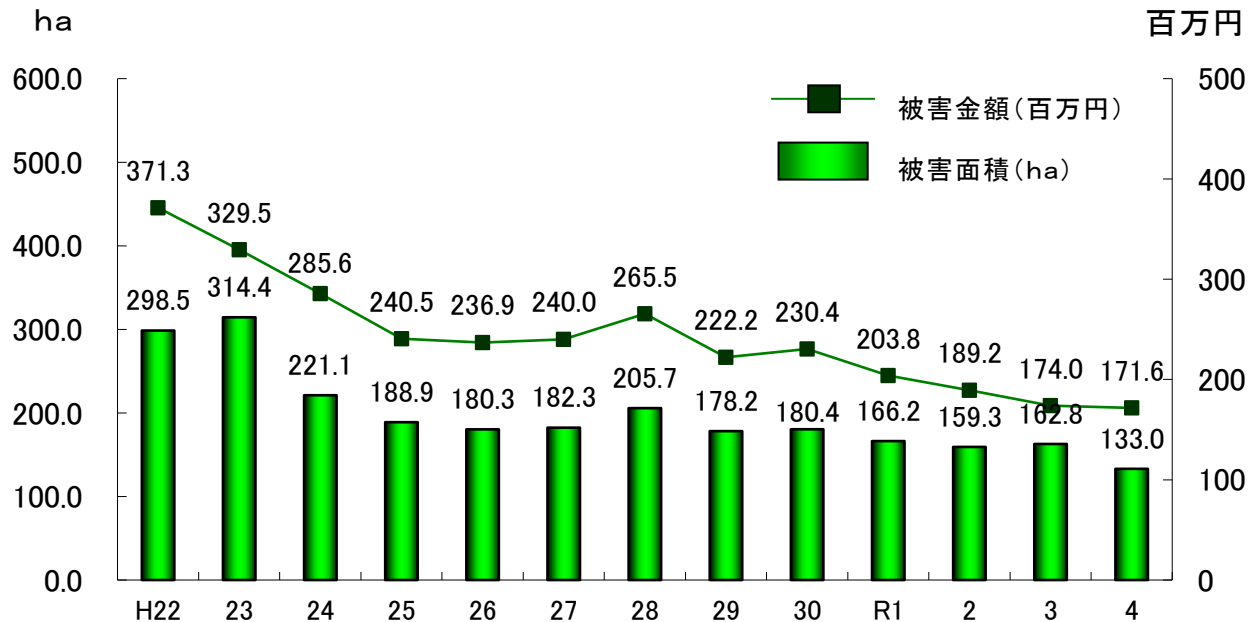


図-4 被害面積及び被害金額の推移（イノシシ）

被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合は5割弱で推移しており、鳥獣による被害の中で、最も深刻な影響を及ぼしています。

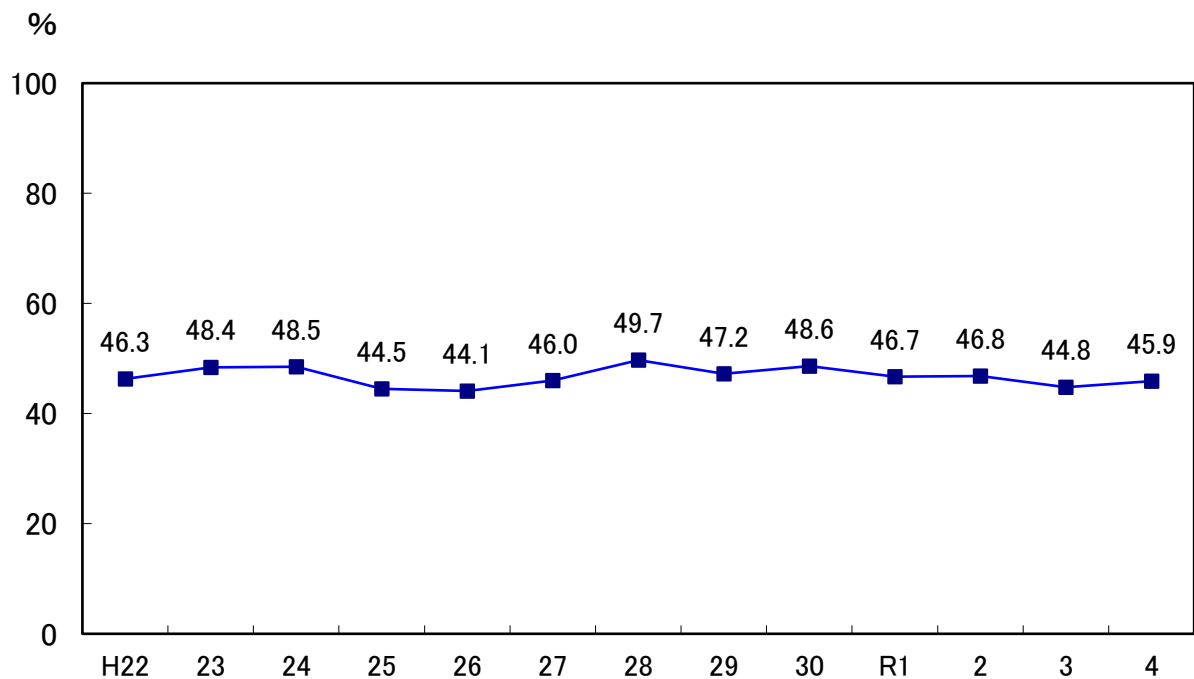


図-5 被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、水稻が約1億1千9百万円と最も高く、被害金額全体の69%を占めています。次いで、いも類、果樹、野菜の順になっています。

百万円

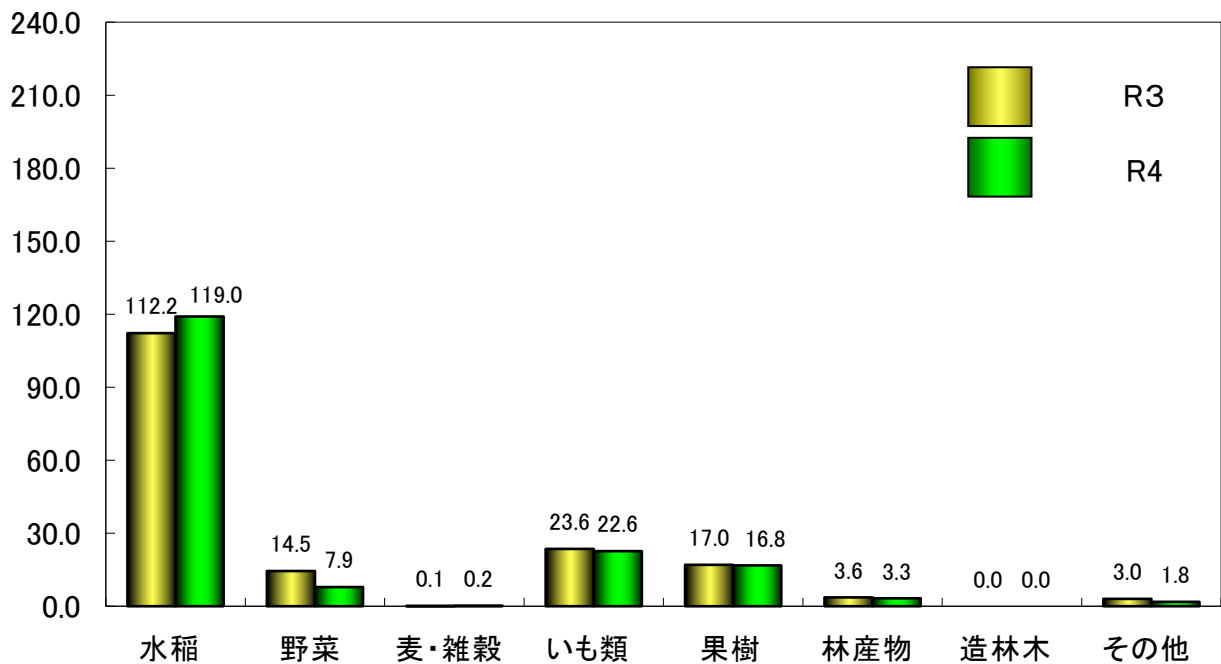


図-6 イノシシによる作物別被害金額

旧市町村地図（平成12年）

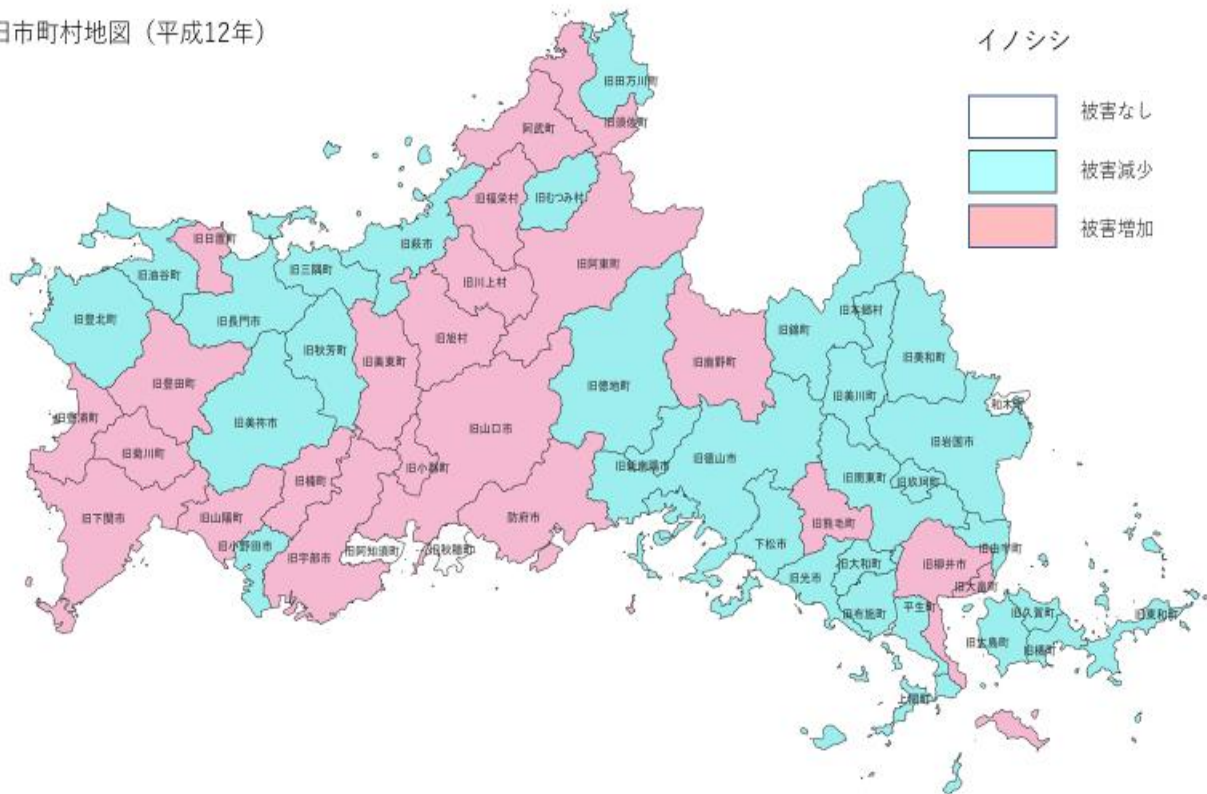


図-7 イノシシ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

(2) サル

サルによる被害は平成 25～27 年度にかけて横ばい傾向にありましたが、平成 28 年度から再び被害が減少してきました。令和 4 年度は、対前年度比 24%減の約 4 千 7 百万円となっています。

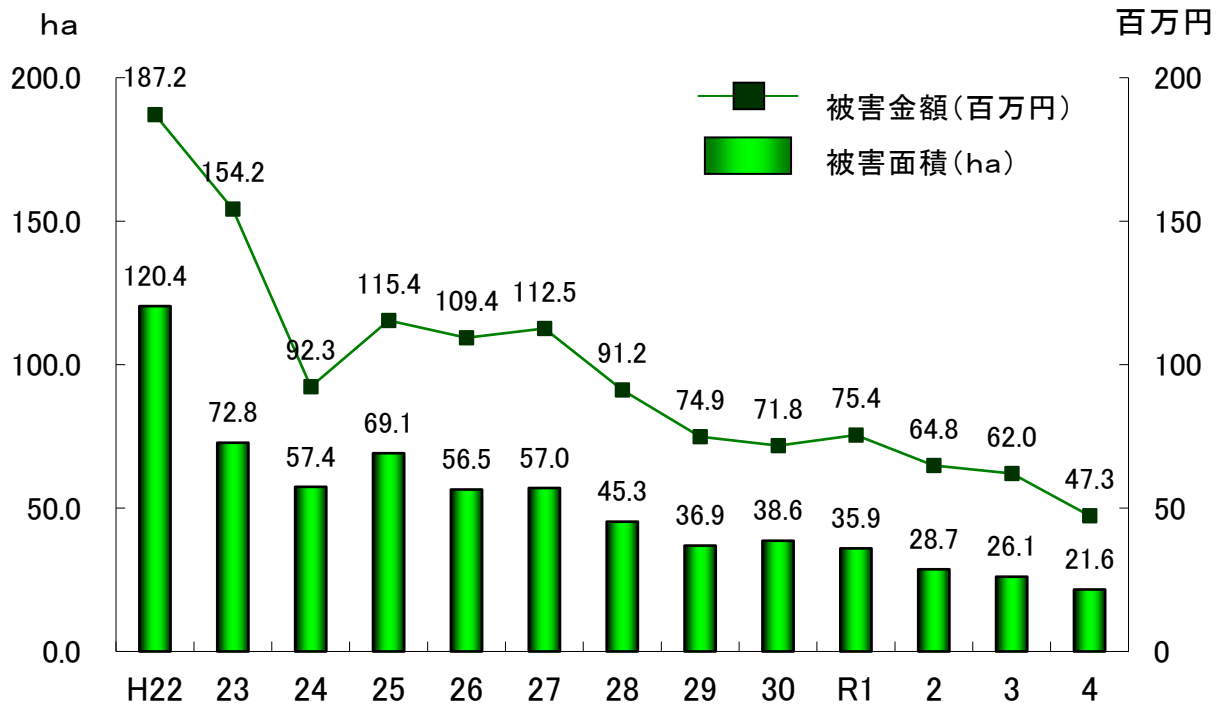


図-8 被害面積及び被害金額の推移 (サル)

被害金額全体に占めるサルの割合は、近年は 16%前後で推移しています。

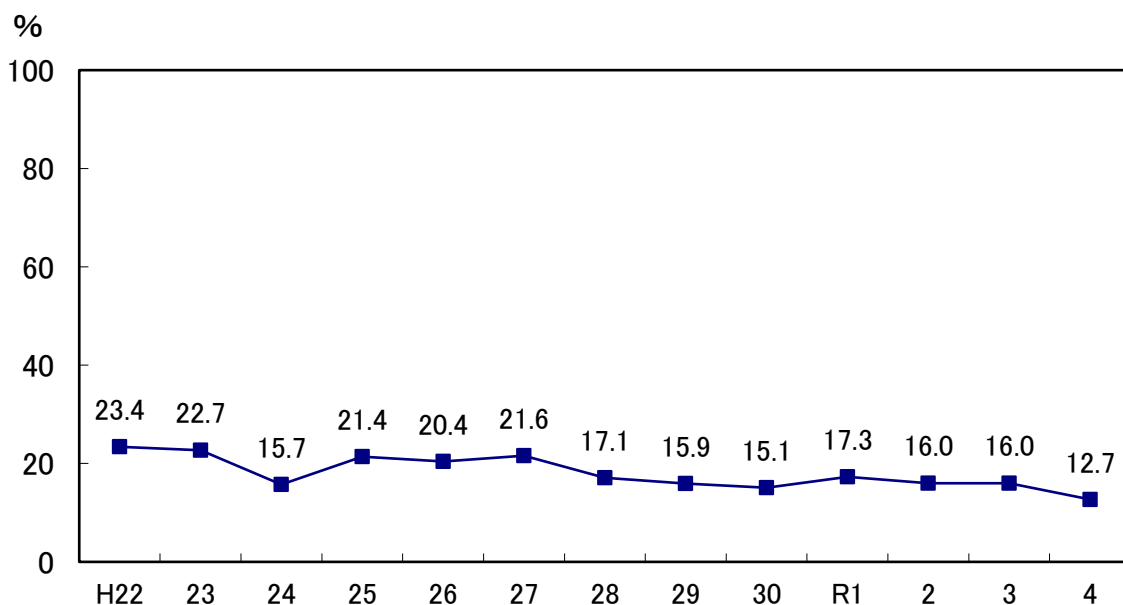


図-9 被害金額全体に占めるサル被害の割合の推移

作物別の被害金額では、野菜が2千4百万円と最も高く、被害金額全体の51%を占めており、次いで果樹、水稻、いも類の順になっています。

百万円

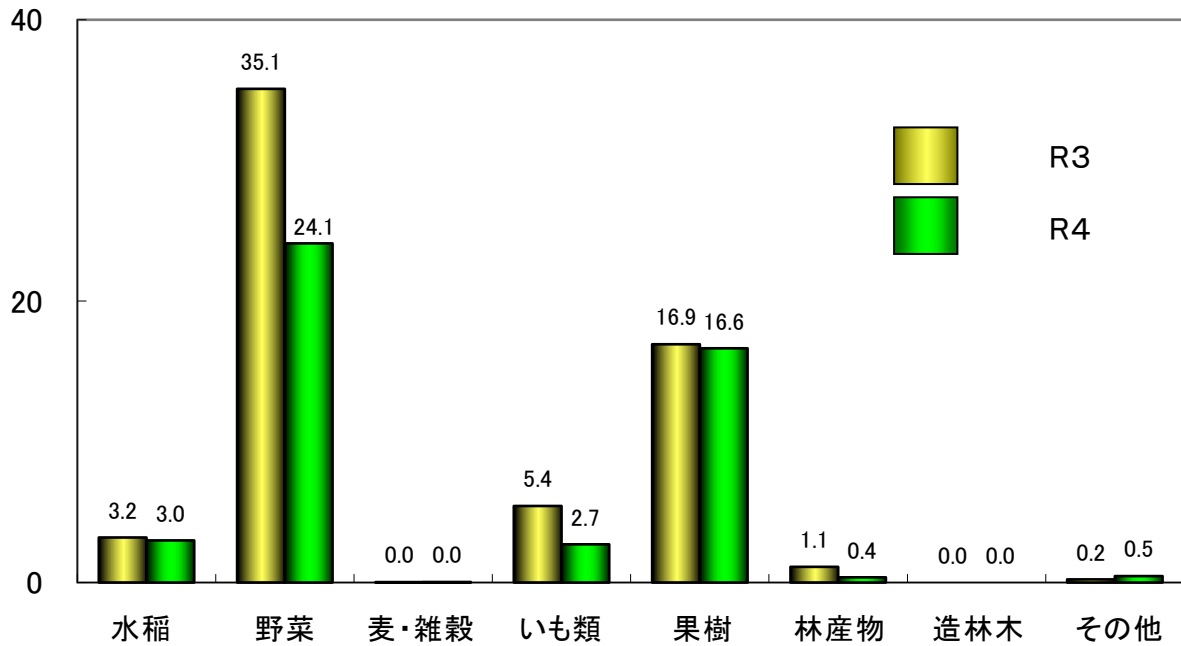


図-10 サルによる作物別被害金額

旧市町村地図 (平成12年)

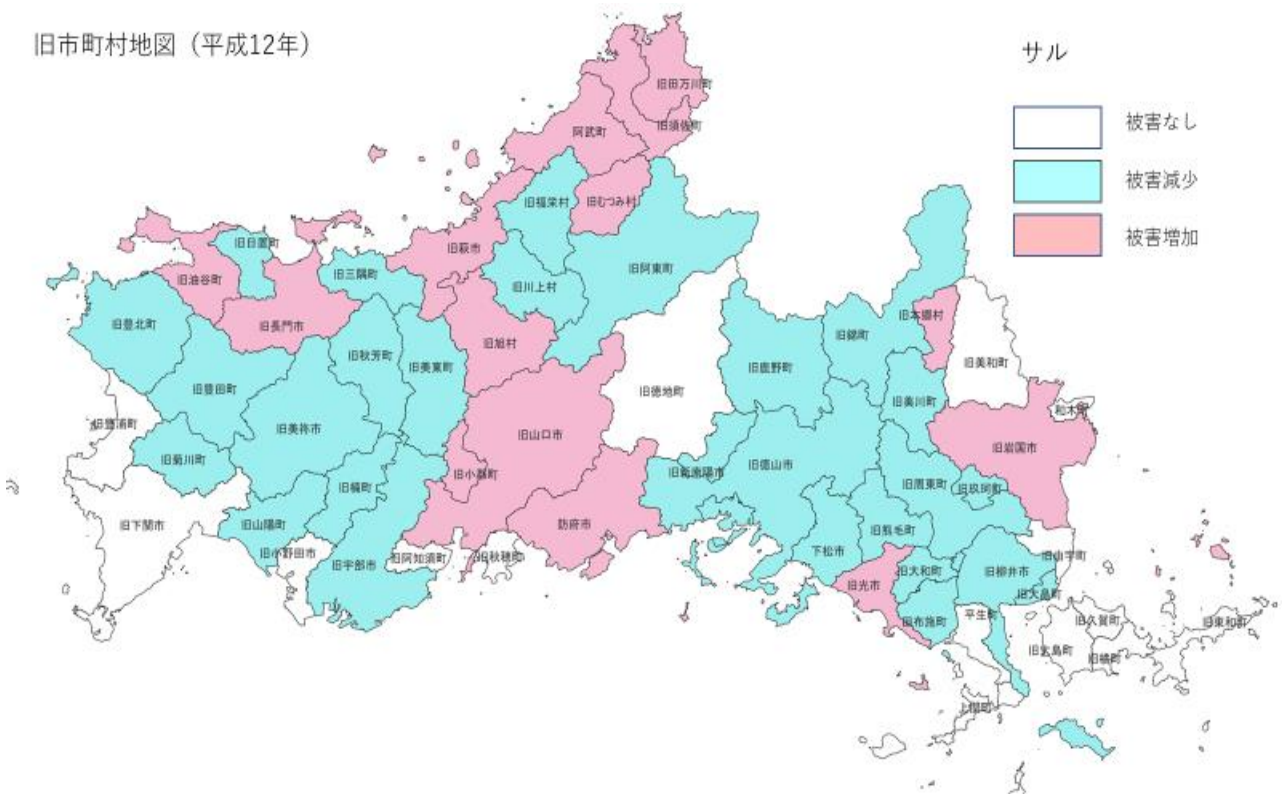


図-11 サル被害の発生地域 (旧市町村別被害額の増減)

(3) シカ

シカによる被害はH29年度から減少傾向にありましたが、令和2年度以降増加傾向にあり、令和4年度は対前年度比7%増の約9千7百万円となっています。

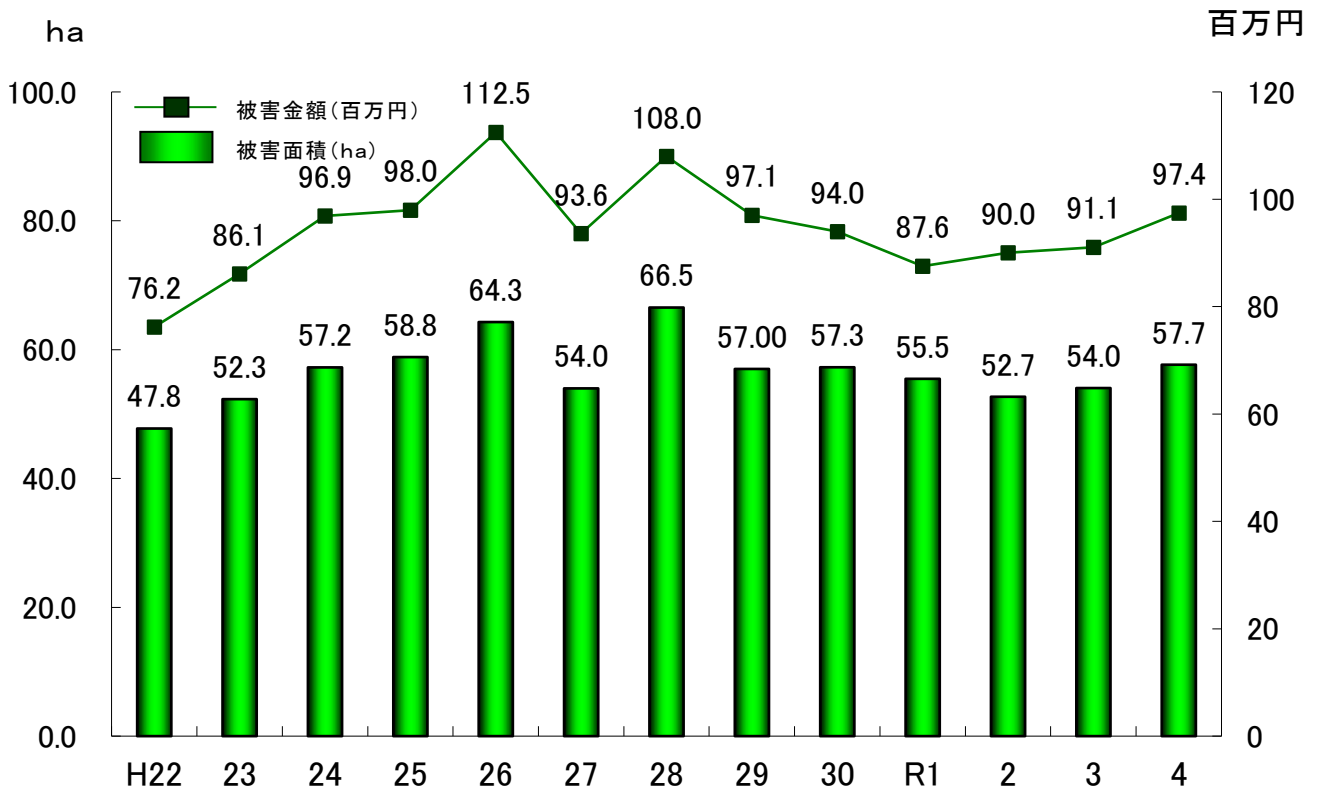


図-12 被害面積及び被害金額の推移 (シカ)

近年は、被害金額全体に占める割合は20%前後で推移していましたが、令和元年度以降、徐々に割合が上がっています。

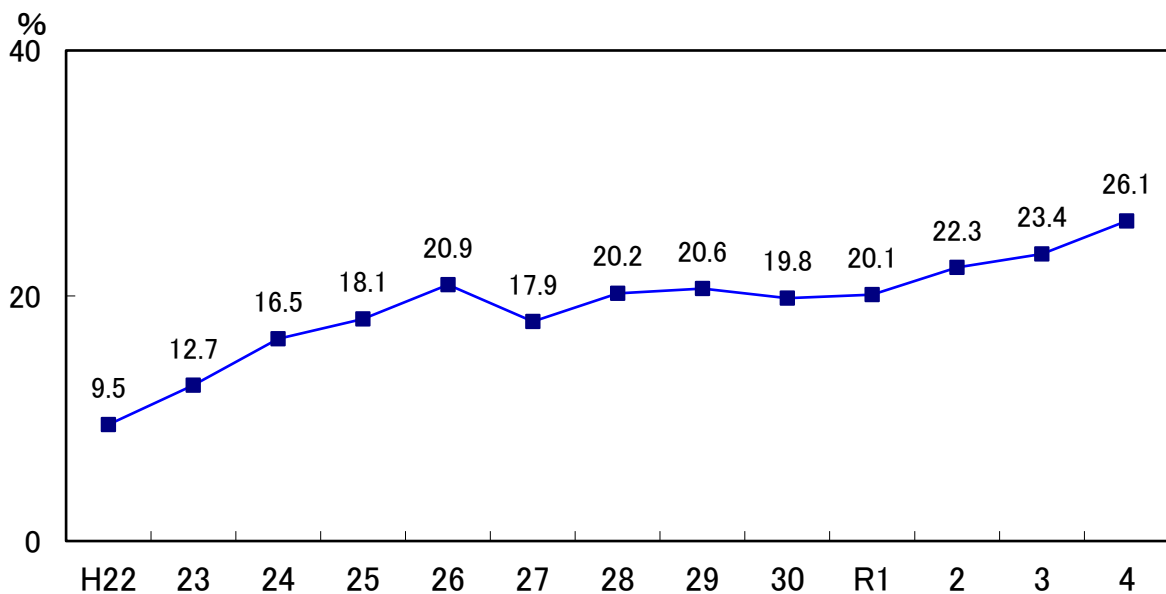


図-13 被害金額全体に占めるシカ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、造林木の角こすりによる被害が最も大きく全体の55%を占めており、次いで水稲、いも類、果樹・造林木の食害の順になっています。

百万円

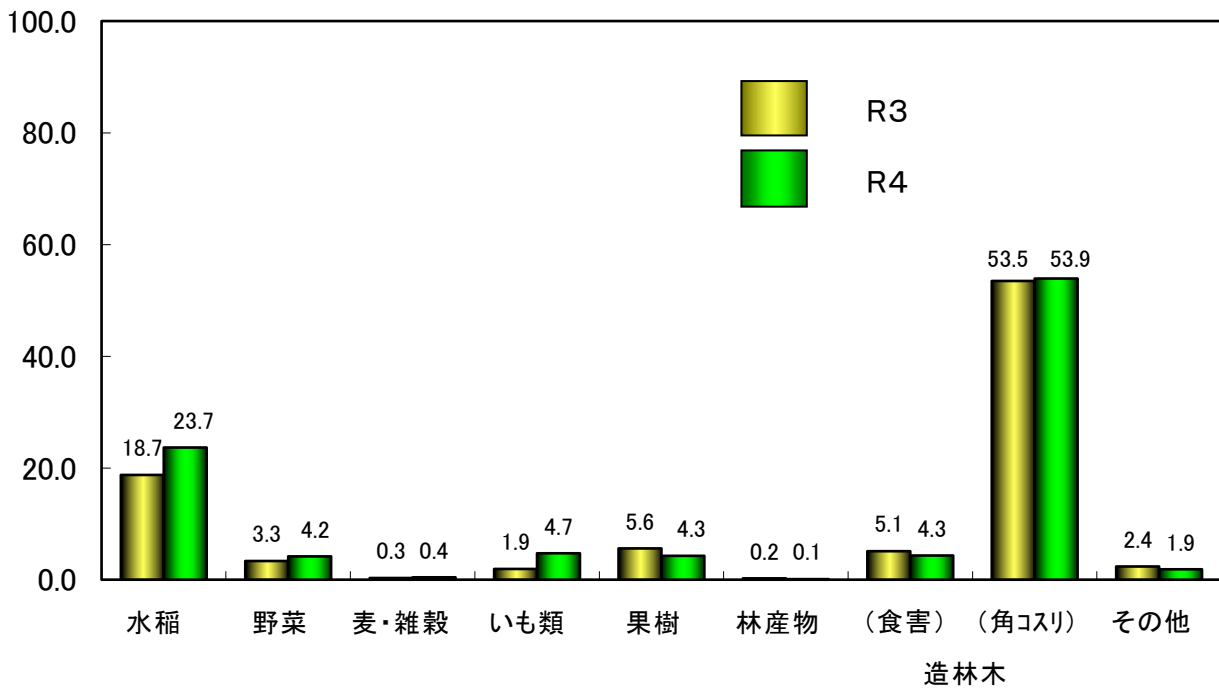


図-14 シカによる作物別被害金額

旧市町村地図 (平成12年)

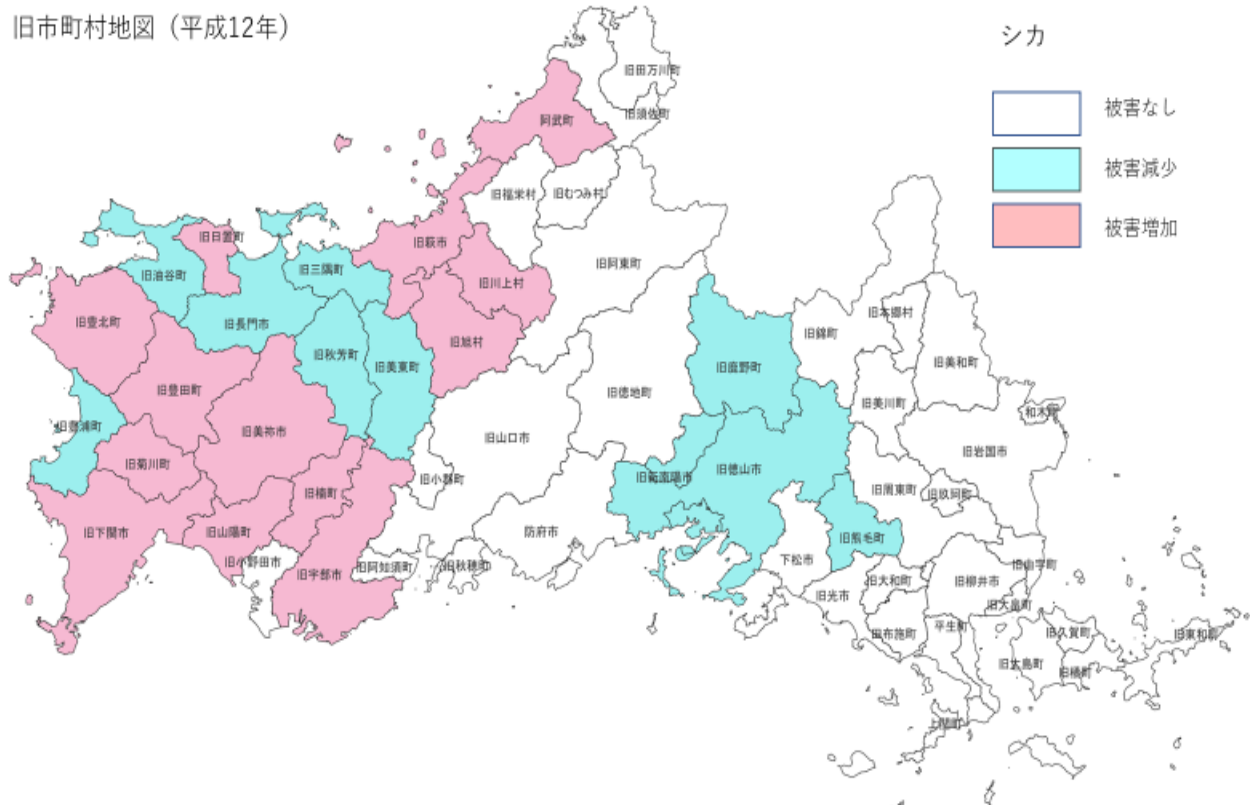


図-15 シカ被害の発生地域 (旧市町村別被害額の増減)

(4) クマ

クマによる被害は令和3年度より減少傾向にあり、令和4年度は対前年度比 20% 減の 200 万円となっています。

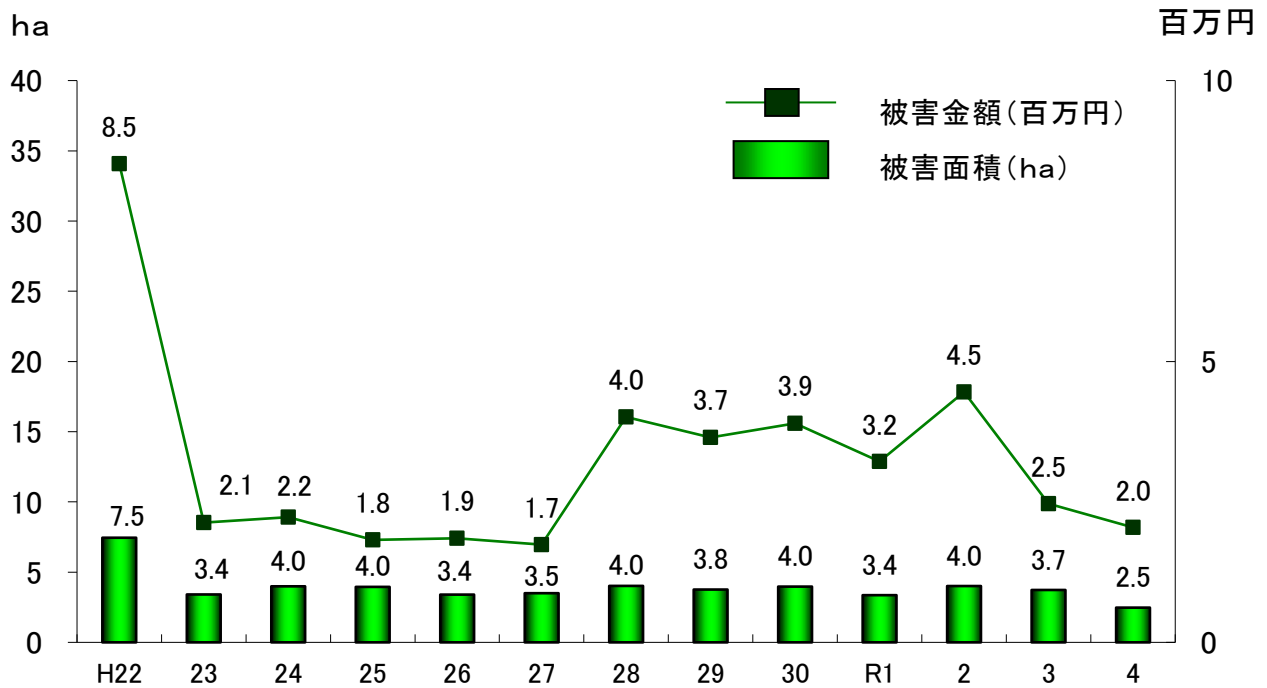


図-16 被害面積及び被害金額の推移 (クマ)

作物別の被害金額では、果樹が 79%、養蜂が 21%となっています。

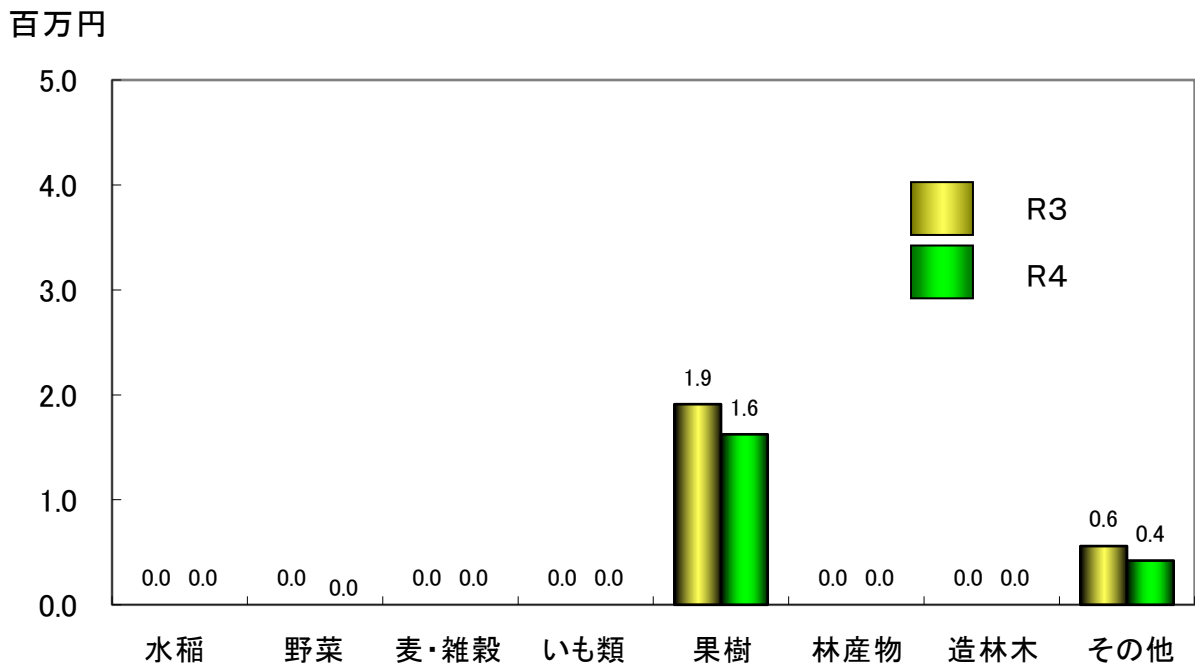


図-17 クマによる作物別被害金額

(5) タヌキ

タヌキによる被害は近年減少傾向にあり、令和4年度は対前年度比48%減の約230万円となっています。

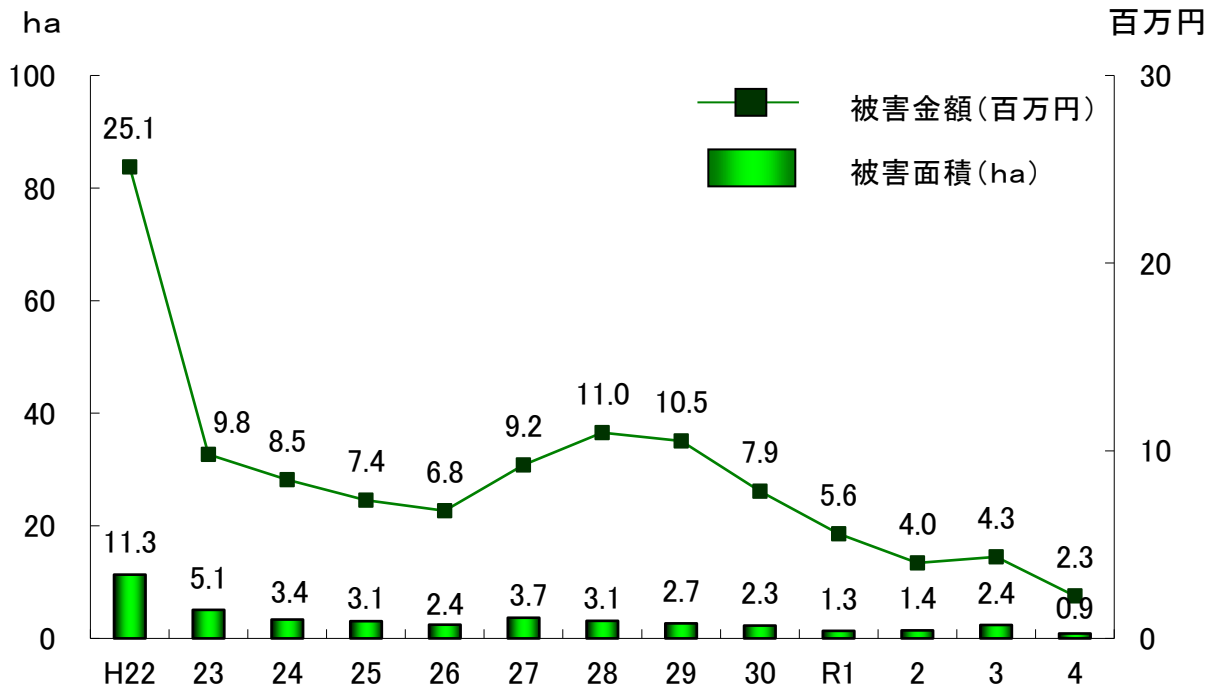


図-19 被害面積及び被害金額の推移 (タヌキ)

作物別の被害金額では、野菜が43%、果樹が57%となっています。

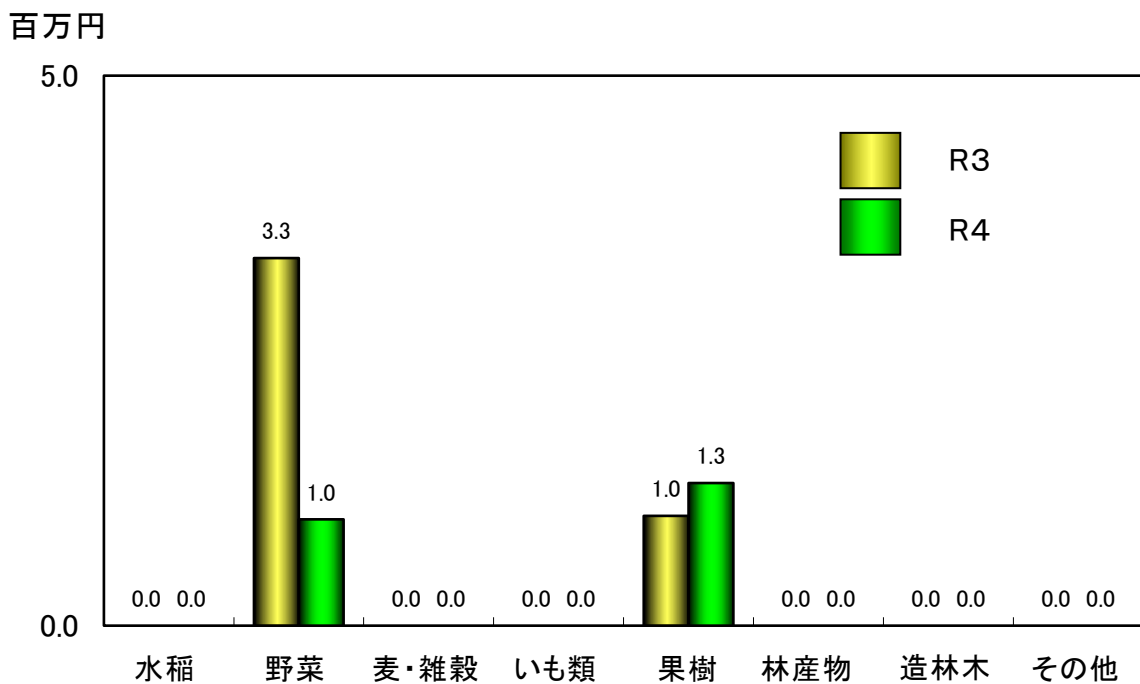


図-20 タヌキによる作物別被害金額

(6) その他の獣類

その他の獣類による令和4年度の被害金額は、対前年度比18%増の約1千3百万円となっています。

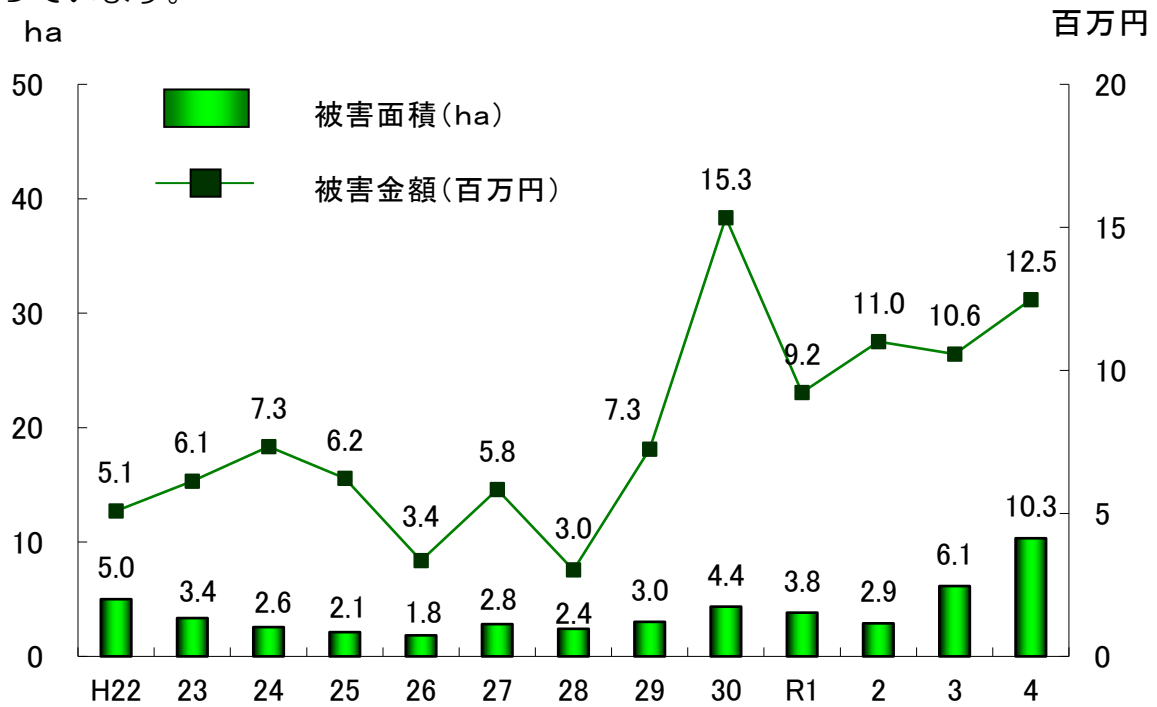


図-21 被害面積及び被害金額の推移（その他獣類）

昨年度と比較するとノウサギ、アライグマの被害金額が増加しています。ヌートリアは野菜、水稲、アライグマは、果樹の被害が多くなっています。

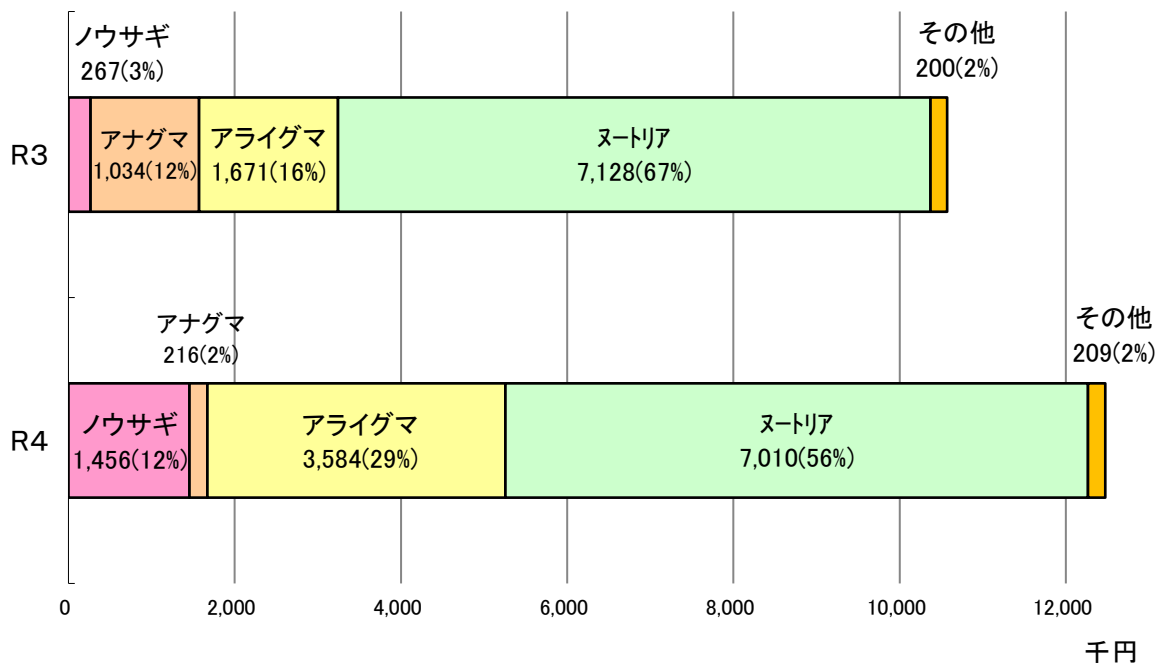


図-22 その他獣類による被害金額の内訳

旧市町村地図（平成12年）

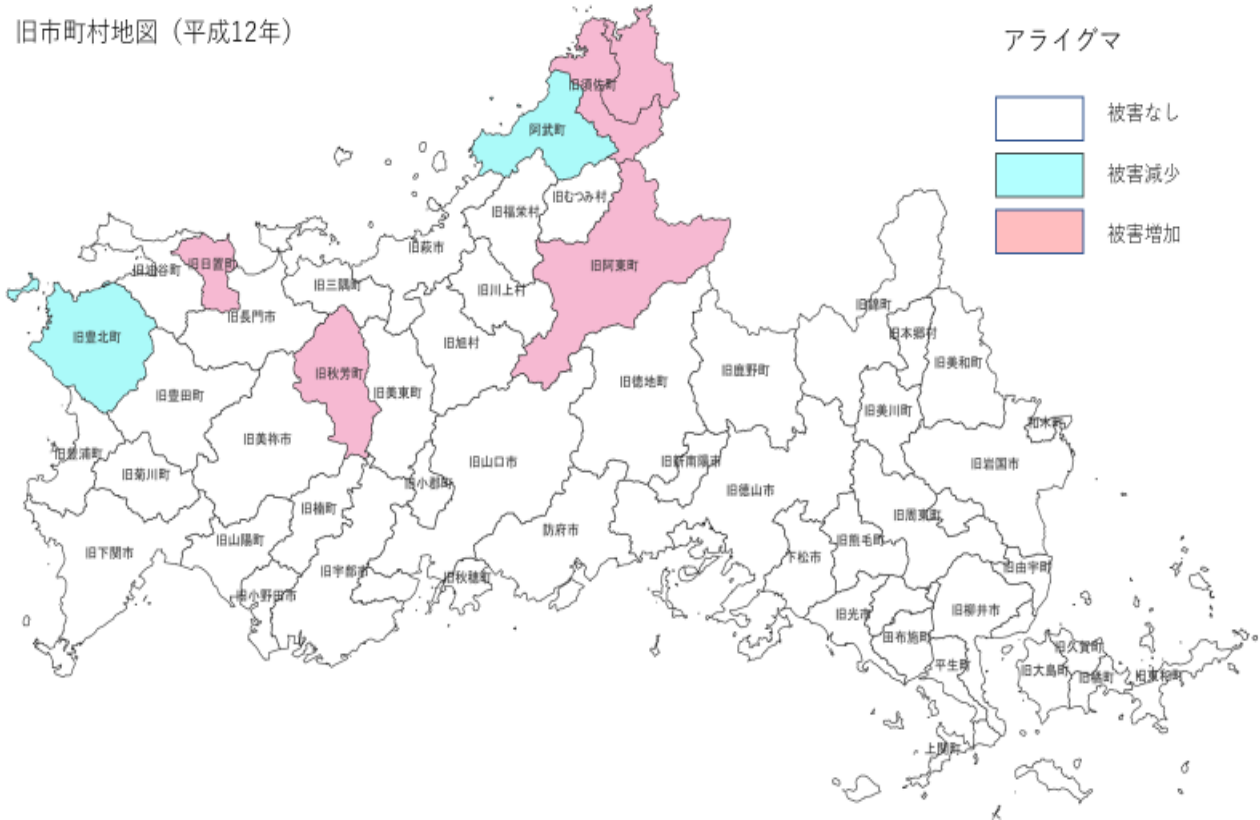


図-23 アライグマ被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

旧市町村地図（平成12年）

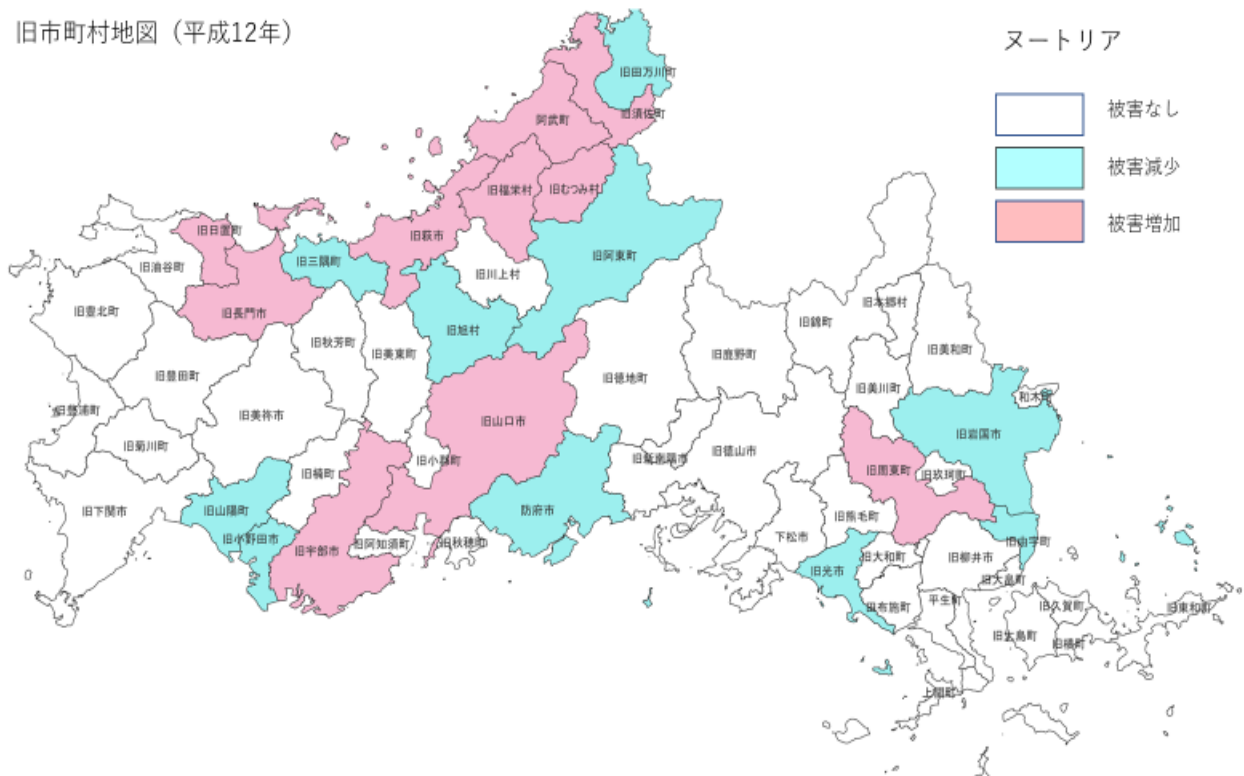


図-24 ヌートリア被害の発生地域（旧市町村別被害額の増減）

3 鳥類による被害状況

鳥類による令和4年度の被害金額は、対前年度比8%減の約4千1百万円となっています。

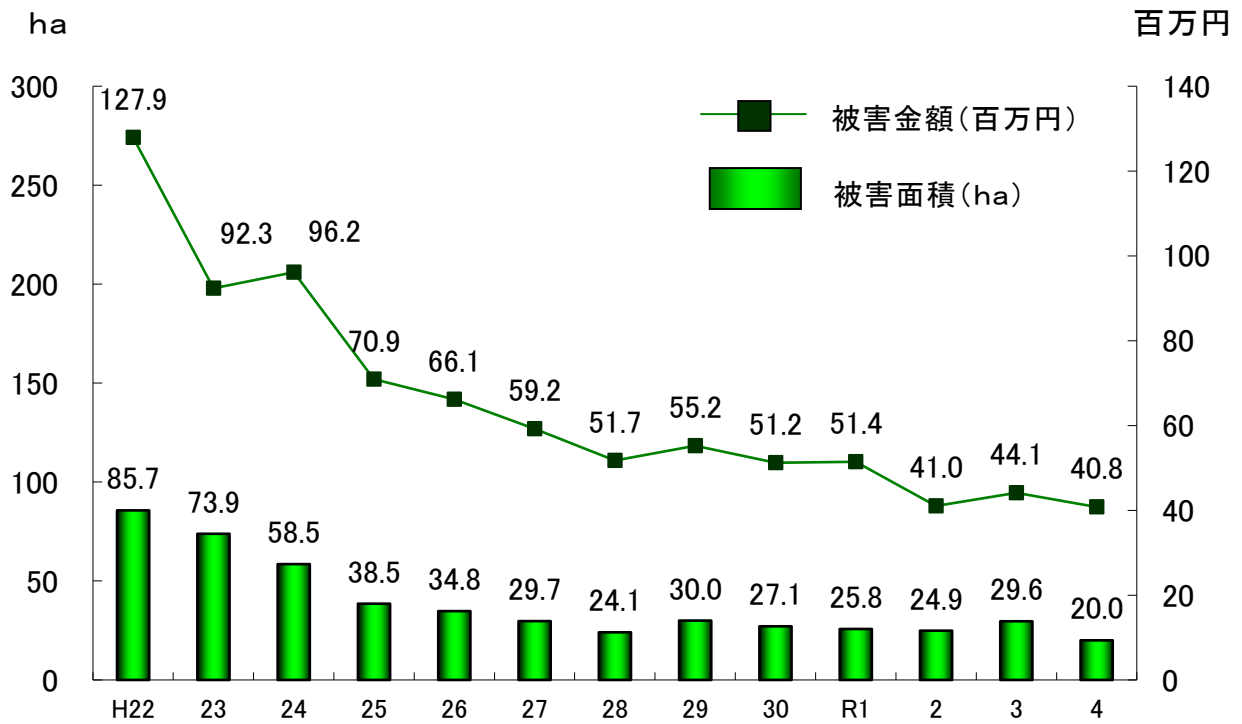


図-25 被害面積及び被害金額の推移（鳥類全体）

被害額全体に占める割合は近年、11%前後で推移しています。

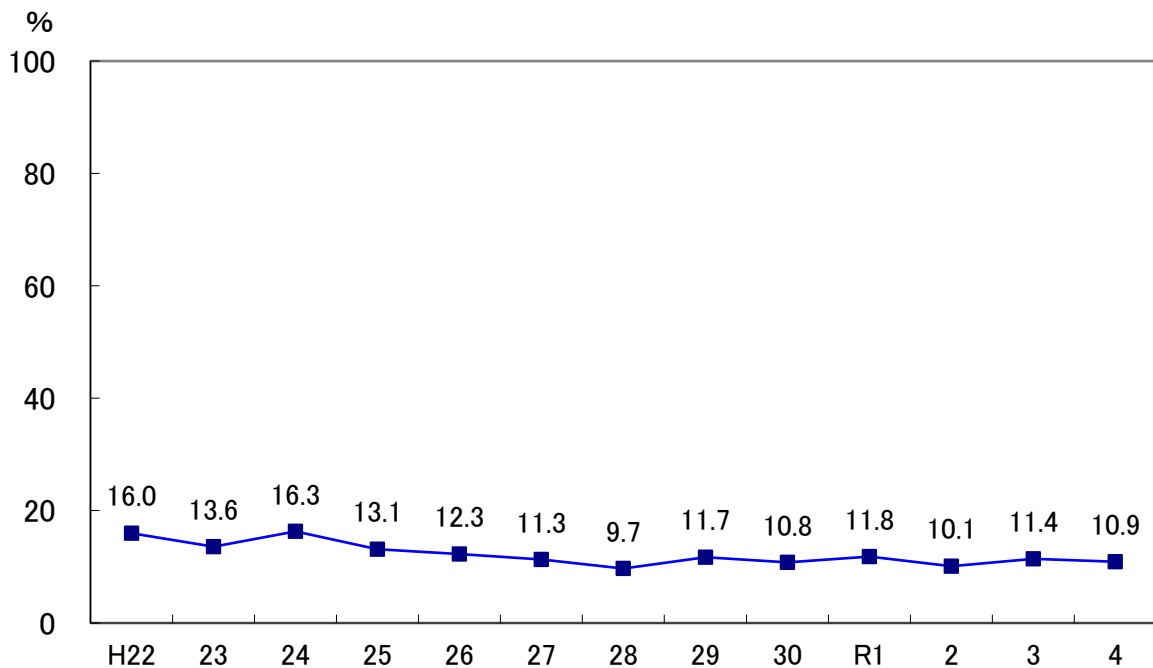


図-26 被害金額全体に占める鳥類被害の割合の推移

昨年度と比較するとカラスの被害金額が増加しています。
ヒヨドリとカラスを合わせて、全体の約8割となっています。

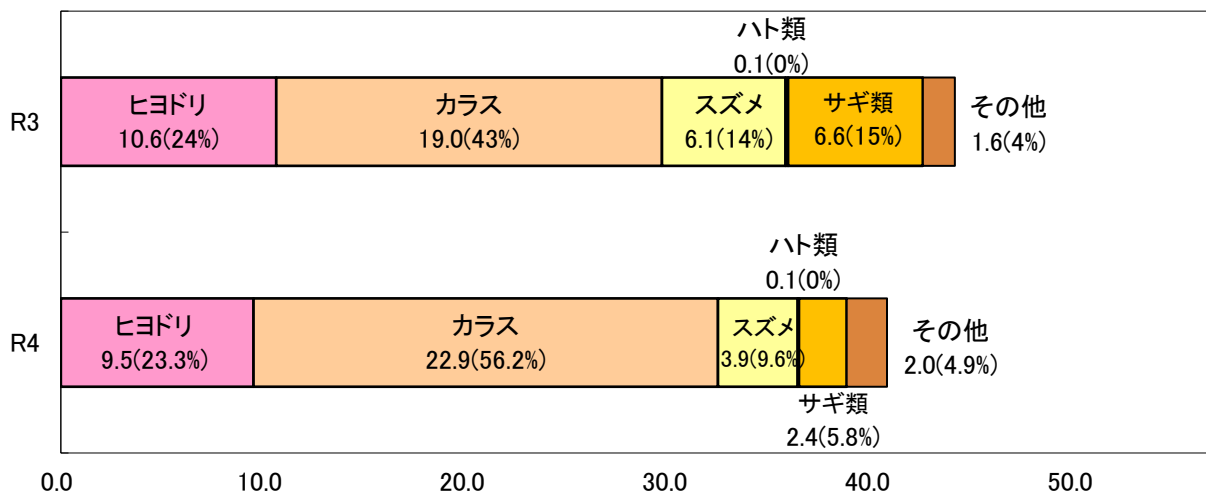


図-27 鳥類の種類別被害の内訳

鳥類の作物別の被害金額では、果樹が最も大きく、次いで野菜、水稻となっています。

百万円

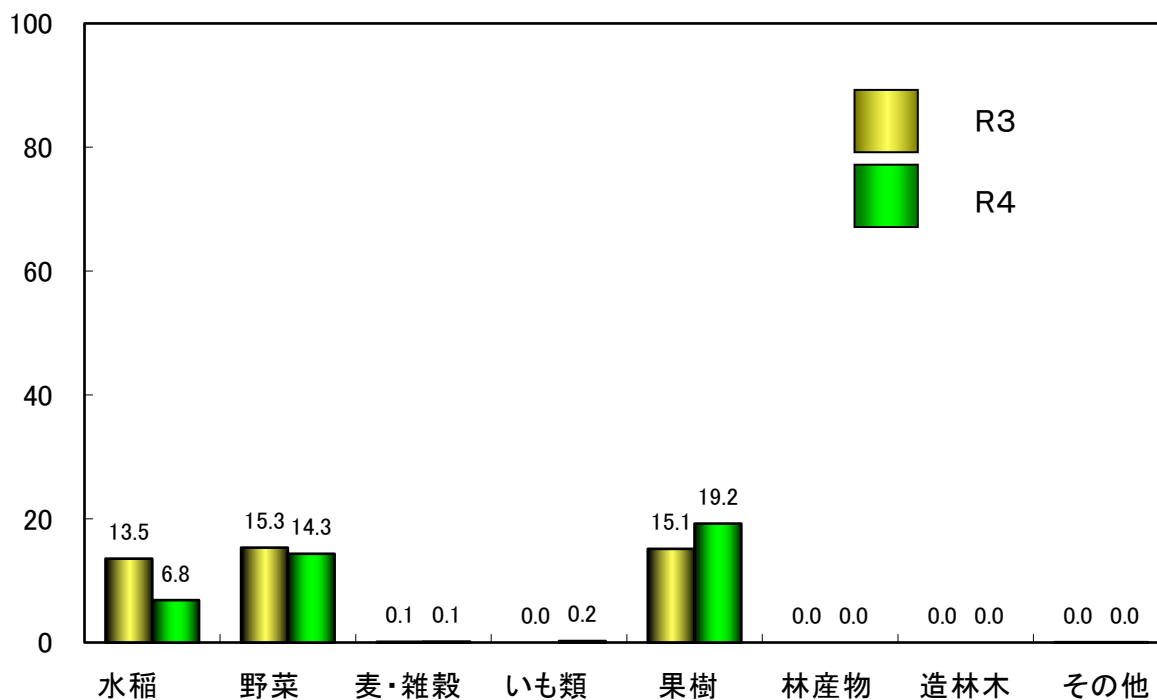


図-28 鳥類による作物別被害金額